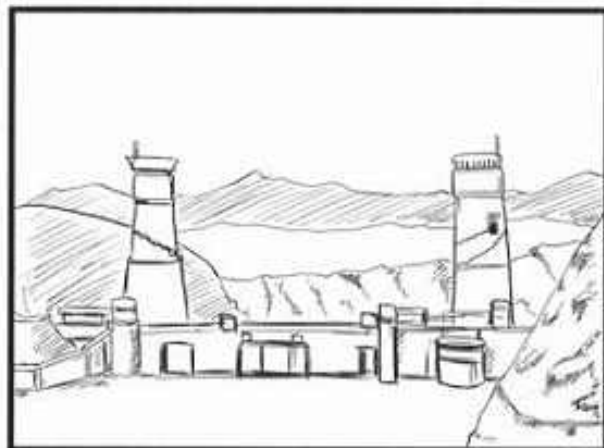




扇情の
ヴァルキュリア

出せ、セルベリアの中に

成人向



過か昔、驚異的な戦闘力をもつて大陸全土で猛威を揮ったヴァルキュリア人も今では純血種は希少でありまたその大いなる力を発揮出来る者も少なくなっていた

戦争が続く限り
勝者と敗者は必ず
生まれる…

たった一人で戦車を含む
一個中隊に匹敵する力と
上官への絶対的な忠誠心
清廉潔白・公平無私な態度
前線指揮官として類まれな
能力を持った美しき戦士が
戦いに敗れ捕らわれていた…



私はどうなっても
かまわないのだ…

だが捕虜になった部下達には
手をかけないで欲しい
將軍…約束してくれないか？



その言葉に
一言は無いと
信じると
いうのか？

バケモノとはいえ
武人の誇りくらいは
持つておるのだな？

フム…



当然だ…それと部下の
護送は義勇軍の連中に
頼みたいのだが…

く…

あいつらに
とな？
約束しよう

これでワシの武勲は
比類無いものとなったな！
アーハッハッハッ！

将軍：部下達を
護送する連中はいつ頃
出立したのだ？

私の自爆で基地と
駐留軍を殲滅させるに
しても部下を巻き込む
わけにはいかない

将軍：話が違っ
てはないか？

いやあワシとしても
早く厄介払いを
したいのだが

連中の戦車が
故障とかで
手取取つておらへない

うむ…義勇軍なら
まだこの基地に
いるそつだ

それはそれとして
ヴァルクキュリアよ
どんな扱いをしても
かまわんの
だったよな？

そ…
それは…

仕方が無い…
どうせここで尽きる命だ
義勇軍と部下達が
ここを離れるまでは
屈辱に耐えてみせよう

ではまず
この場で
跪いてもらおうか

ヴァルクキュリアよ
名は何と
言つたかの

セルベリアと
申します
将軍閣下

セルベリアよ
降伏の証として
この場にいる
全員に
その口で
奉仕せよ

ニヤッ

承知した

なんという
ゲスなブタだ



私の力を
知っていないながら
なぜそんな
ことを??

シム

シム
シム

無論、冗談だよ
だが、上司相手の夜の勤めは
精励してたんだろう??



なんて
匂いだ!

ガリアには入浴の
習慣が無いのか?



これからは
お前が風呂
代わりだよ!

下には下が
いるものだな:
なんて愚かな連中だ

ちゅ。
ちゅ。
ちゅ。

シム



んちゅんちゅん

しっかし上手だな
さてはこの技で
昇進してきたのか?

マクシミリアン様は
そのような「どわっ

ヌプッ
ヌプッ

こんな凄い
おっぱいを
スルーだと?

いや、ありえないでしょ
このポリウレムの乳に
触れないなんてさ

いや、しかし嫌いな
女ならどんな肉体でも
興味湧かないだろ?

グー
グー
グー

わ、私が嫌われていた?
マクシミリアン様に
女として見られていなかった?

例えそうでも
一向に構わない!
私は忠誠を尽くすのみだ

グー
グー
グー

チンコ
啜えながら
言ってもねえ…

くっ…これは
貴様らがやらせて
いるのだから…

グー
グー
グー



まだ義勇軍は
動かないのか！
これ以上の屈辱には…

勇猛なる
セルベリア大佐に

たつぷりと精液を
浴びせて
差し上げましょう



か…感謝する

ダモン將軍以外の
兵もブタにも劣る
連中ばかり…

ワッ
ワッ

あふう
べとべとだ

美しいお顔に
しっかりと
染み込ませて
あげますよ！



これで今まで
以上に美しく
いやらしく
なりましたよ

ちゅ。ぱっ

やっぱりダメだ！
マクシミリアン様から
預かった部下達を
道連れにはできない



將軍

ぺろっ

次は何を
すればいい？



こ、これは
素晴らしい



これほどの屈辱を
味わったのは久しぶりだ
恨むぞ…將軍閣下！

ホッソッ

くりくり



アッハッハッ！
この程度で恨んでいては
この先苦労するぞ？

そんな…

フツ…大方、複数の男達で
私の体を犯し弄ぶ気
なのだろうが…

ムニョッ



今はその巨大な乳で
奉仕すればよい

きよ、巨大だど？
仮にも帝國軍大佐の
私に対してなんて
言い様だ！



ムニョ
ムニョ

モモッ



ワシは將軍だぞ？
おれにお主は
ワシの肉奴隷に
すると決めた

カホッ
カホッ

やはりそれが
目的か…性根の
腐ったゲスらしい
発想だな



セルベリア大佐よ
つい先日貴公は
ワシになんと申し出た？

わ、わかつている…
あまりの要求に
驚いたにすぎない

スッ

うほ！！

4ユポッ

将軍が望むのなら
大人しく従うまでだ



し、尻の穴を
舐めろと
言ったのか？

く…

ん？
まさか
拒むのかね？



肥溜めの匂い！
舌がおかしくなる！
鼻が腐り落ちそうだ！

ご褒美を
頂けるよう
微力を
尽くします

ヌポッ

4ユルッ
4ユポッ

ハッハッハッ！
良い返事だな



私がこんな醜い男の尻の穴を
舐めさせられるなんて…
義勇軍よ、早くこの基地から
部下を連れて離れてくれ！

将軍閣下の尻穴を
私の舌で綺麗にさせて
頂けて光栄であります

ちゅぽっ
ちゅぽっ

丹念に頼むぞ
上手にできたら
褒美をやるう



我々がリアの
兵が恐れた
帝国の魔女
とは思えぬ
有様だな

我が忠良なる
兵士達よ！

撃て！
ヴァルキユリアの槍の如く！



何を黙っておる
さてはワシの
尻を舐めるのが
楽しくなって
きおったな?



家畜以下の
憐れな牝にすぎん

戦場での私は死んだ！
今は惨めな敗者として
ブタの尻を舐めている



ギョッ

ヌメッ



そんなことが
ありうるわけ
なからうに…
どうしてこれほど
までに愚劣に
なれるのだ

ギョッ

ギョッ

汚れたモノが
綺麗に変わって
いく様子は
どのような
モノであつても
楽しく映る
ものです



くっ…また
私の中で
果てるのか…

ジロッ

褒美を
与えねばな



それよりも
將軍閣下は
そろそろお果てに
なられるのでは
ありませんか？

爆発寸前の
砲塔のように
熱く固くなって
おります

ぐに
ぐに

ぬおおっ…
い、いやまだだ
まだイかぬぞ



戦車の修理は遅くとも
丸一日あれば終わる…
それまでの我慢だ

将軍も何度も
出せぬはず

ぬほおっ！
この圧迫感
味わったことがないぞ！

ぽんぽんぽんぽん

ちゅ

更に吸うのか！
凄いで！
素晴らしい！

ちゅー



出る！出るぞ！
全身で受け止めよ！
帝国の乳牛めっ！

んんっ！

う、牛と呼ぶなあ！

ミルクまみれが
お似合いだぞ
セルベリア！

グニャッ

グニャッ

グニャッ

グニャッ

貴様ら全員
この身もろとも
滅ぼしてくれる…

明日から
楽しみだな

あれから
三日が
経った

戦車の修理は
想定以上に
難航していた

味方の支援を
拒否したのか？

修理に時間が
かかりすぎだろう
整備兵を貸しては
やれないのか？

今はまだ
部下達に手を出しては
いないようだが
これ以上ここにいれば
どう扱われるか
わからない…

それが向こうが
断りおつてな

ゴロゴロ

どうもワシらは
信用されていない
らしくてのお

…將軍閣下は
私との約束は
守っている

そうか…だから
マクシミリアン様は
誰も信用なさらないのだな
難しいお立場なのだ…
辛く…寂しい…

さて、今日は少し
変わったことをしよう

平民は貴族を
信用せんよ

乳での奉仕は
十分おかしな
行為だが？



愚か者め…その前に私も
貴様もこの世におらん

くあっ!

グッ



どんなに忙しくとも
一回は使いたい
名器だからな

フル

フル

フル

それにもしお主が
孕めばヴァルキュリアの
力を持つ子が手に入る

ビクッ



荒々しく私の
中に侵入して
くるぅぅぅ!!

ズッ

ビクッ

あああつ!
ふ、太くて固い!
將軍のペニスが!

根本まで
全部入った…

ブルブル

この状態で射精されたら
私は確実に孕んでしまうな

ぐう！更に奥にい！
し、死んでしまう！

まさかこのまま
私を処刑する
つもりなのか？

安心しろ
女という生き物は
この程度では
ビクともせんよ

ただより確実に
妊娠させてやるうと
思ってな！
一番深いところで
射精してやるぞ

くあああつ！

あぐう！
くうう！

ぐほ

ズッ
ズッ



つくづく愚かだな…部下を
連れた義勇軍がこの基地を
離れた日が貴様の命日に
なるとも知らずに妄想に
浸るとはな…だが…

め、命令とあらば
従うまでだ…
約束だからな



ヴァルキュリアと
將軍であるワシの子だ
さぞ優秀な軍人になろう



それも一人ではない
お主が産める限り
子を生してもらおう



そのときまでにタモンの
機嫌を損ねて私が
処刑されてしまつては
ここまでの屈辱に
耐えた意味がなくなる

フン!
フン!
ホレ
イクゾー!

ふあつ!
將軍!

閣下の精液が
私の子宮に届くう!

…捕らわれてから
もう一ヶ月が
過ぎてしまったか…

全部飲みよ

わかっている
精液は貴重な
栄養素だから

まさか義勇軍の連中が
疫病にかかってしまっ
なんて計算外だった

たまには
他の食事も
与えてくれ

よく言うよな
精液が一番の
「馳走のくせに！」

さあ、今宵も
ワシの子種を
存分に味わうのだ
ヴァルキュリアよ！

認めたくはないが
おそらく私は將軍の子を
身籠ったことだろう…
もうすぐ死ぬ身でありながら
私はなんと罪深いことを…

もう明日で
三ヶ月か…

今日も
溢れんばかりに
注いだのか

将軍閣下の子を
宿した私のおそこは
もはや便器扱いあな

義勇軍の分隊が勝手な
真似をしなれば
とつくに基地ごと
消し去っているものを

ワシは寛容でな
部下達も喜んで
おるよ

…も、もちろんだ
便器なのだから

くっ…

毎日使えて
感激っす！

大佐も
嬉しいでしょ？

ドキッ

まさか將軍閣下は私の汚らしい穴まで使おうと考えているのか

尻を？

たっぴん

かあ

貴様らに使われる為だけに私の穴はあるのだから…

どきどき

たっぴん

將軍？

しかも穴は一つではない尻を向ける



ふ、ふざけるな！
誰が尻の穴で
奉仕など
するものか！

離せ！
触るな！
やめろおおっ！

ガ
グ
グ
グ

見事な洞察力だな
お主を使える兵の数を
増やすためにこれからは
尻穴でも奉仕して
もらうぞ



抜け！
抜いてくれ

入ってくる！
お尻…裂けてしまう！

どうせすぐに快楽を
覚えるようになるさ
セルベリアには
あのヴァルキュリア人の
血が流れているのだからな

ズグッ

空いてる穴は使って
いいんですよね？



セルベリアは
誰に向かって
そんな口の
利き方を？

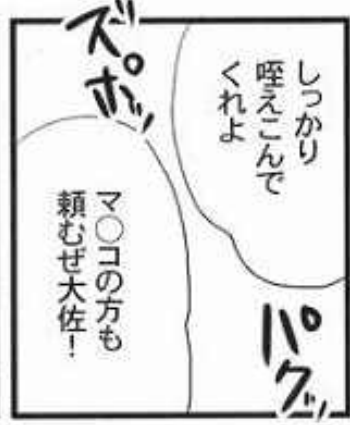
ひいっつ！
広げるな！
止めろと言っている！



やれやれ
これだけ立派な
尻をしておって

使わなくて
どうするのだ

もみ
もみ



戦場でしか味わえない
あの苦しさに似ている？
痛みと辛さに畳み掛けられた
重圧がやがて高揚感へと
移り変わるような…



返答は
できない
なぜなら
私は將軍の
ペニスに
尻穴を
犯されて
感じていた
からだ



あぁ♡
あぁ♡
奥まで
犯されてる

痛く
辛い
か、哀しい
くある♡

驚いたな
痛いのが好きって
マンなのか？

あはひやまっ♡
おひい♡

ズキッ
ズキッ
ズキッ

バケモノらしいと
言えはらしいが
意外だよ

まるで肛門が別の
何かに変わった
ようだ…なぜ…



んあぁ♡
ひく
ひく

ダメだ…何も
考えられない…
今の私は尻のことしか
考えられん…尻が痛く
そして気持ちいい…

気に入ったようで
何よりだな
明日からは尻穴でも
一回は使おう

あぁまっ♡
ズキッ
お尻♡

なんという屈辱だ
だが…抵抗できない！

普通の性交より
尻穴の方が感じるとは
ヴァルキュリアは
恐ろしいな

ズキッ
ズキッ

ズキッ
ズキッ

お尻
壊れる♡





ここまで
育ってしまうとは
完全に計算が
狂ってしまった

おはよう
セルベリア
今朝は良い
知らせがあるぞ

母乳まで……

母乳はねえが
深くな……
またぞ

また新しい
変態行為でも
思いついたのか？

以前から頼まれていた
お主の部下達だが
来週ついに護送できる
らしい

え……

フウ……

ようやく
この地から
離れてくれるか



んくう…
あつくう

しよ、将軍
部下達の出発と
私の出産は

どちらが
先になる
だろう？

醜く膨らんだ
私の姿を部下には
見せたくないのでは

モッ

モッ

くしゃ

くしゃ



申してみよ
セルベリア

私の最初の
赤ちゃんを

部下に
託したい

んく

んく

トキッ



おそろく
出産が先だ

ならば
今ひとつ
頼みがある

んく

あは



何？ワシとお主の
子を連中に預ける？

子供はこの先
いくらでも
孕むから

せめて最初の子は
帝国の人間に
育てられて欲しいのだ
わかって頂けないか？

デッ

キョッ

新しい願いがあるんだからその分頑張れよ

ちやほほっ

ああ当然だなボテ腹ですまないが精一杯奉仕しよう

ちやほほっ

ニコッ

んちや

躊躇うな

どうした？

私の道連れにと覚悟していたがあと少し耐えれば

お腹の子を助けることができる！

ちやほほっ

ちやほほっ



口と乳だけでも
今のセルベリア大佐なら
十分にイケますよ！

しゃぼっ

んちゅっ
んちゅっ
んちゅっ

あれだけ経験すれば
誰だって上達して
しまうのだな…



この者達は心底私を
性処理用の便器としか
見ていないな

満足するまで
射精を
楽しむがいい！

もう完全に
肉便器
だよな！
チンポを
しゃぶるにも
大好きに
なったでしょ

んちゅ
んちゅ
んちゅ

くっくっくっくっ
まを
出せ
ッ

ブルッ
ブルッ
ブルッ
ブルッ
ブルッ
ブルッ
ブルッ

ブルッ
ブルッ
ブルッ
ブルッ
ブルッ
ブルッ
ブルッ

たまには
風呂に入れ

うほっ！
その舌遣い
最高っすよ！

無能で品性下劣で
女を犯すことしか
興味の無い
ゲスどもが！

そうか
感じてくれて
嬉しいぞ

しっかり
奥まで
啜えこんで！

承知した
全てを啜えこんで
みせよう！

吐き気がしてきたぞ
何百回と啜えても
一向に慣れない味だな

垢が凄いぞ
汚いし臭い

大佐に味わって
もらうために
わざと洗ってない
だけですよ



ワシの子を預ける
相手なのだから
しっかりと尽くせよ



憧れの大佐が
タモンの子を
孕んでいるなんて

ハッハッハッ
私だっ
女なのさ!

毎日のように
中出しされれば
妊娠くらいするぞ

ゆっさ

了解だ

お前達に面倒をかける
のだから遠慮せずに
楽しんでくれ

ゆっさ

あ、いえ、あいつは
そういう意味で
言ったんじゃないと
思いますけど…

うっ！くう！
大佐の妊娠マ○コ
凄い締め付けで…

まさか捕虜に
なって夢が
叶うなんて…

帝国にいる時から
私は性欲の対象
だったか

ズン
ズン

思いの丈を
全てぶちまけるが
いい…さあ…いい!



ひあーう、う
産まれる！

う、うぐ！



こ、こんな所で…
部下達の前で…やはり嫌だ！

ビクッ
ビクッ



赤ちゃんを産んで
しまうなんて

精液まみれで

敵味方に
犯されて

私は何のために今まで
生きながらえてきたのだ



約束…だからな

この調子で
どんどん
産むのだぞ
セルベルア

部下達があの子を
連れて基地から
離れるまでの
約束だがな…



決まっておる

オキナ
オキナ

新たなヴァルキュリアを
誕生させ続ける為だ



あの…せめてお子さんが
乳離れをするまでは
俺達、ここに残ります

…残る？
そうか…



大佐…
そのお話が

ちやほ
ちやほ

どうした
早くここから
去ってくれ！



やっぱり子供は
母親のおっぱいで
育つべきです



私は自らの命を
犠牲にできなく
なってしまう…



どれだけ
孕まされようと

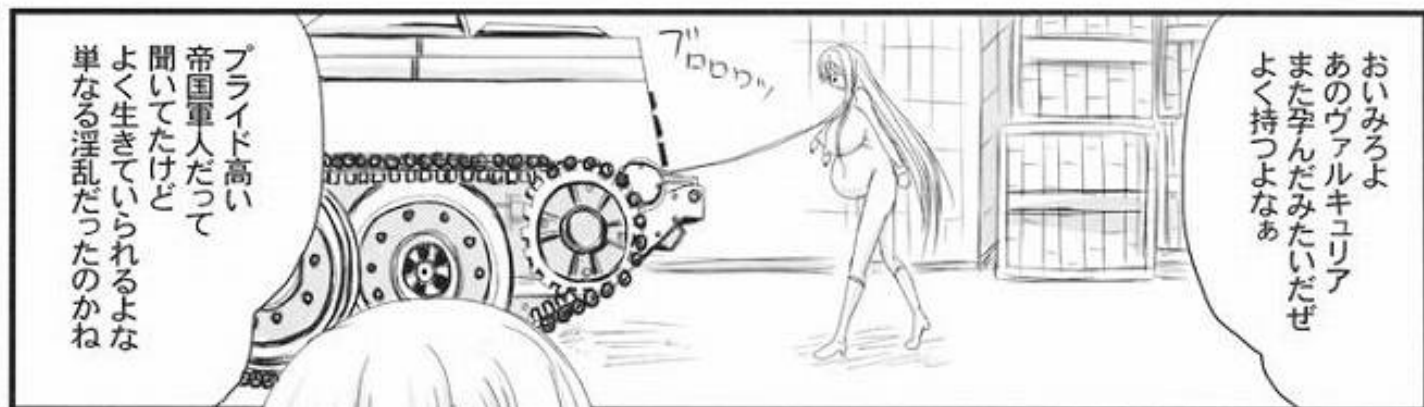
それではどんな
扱いをされようと

んちゃ
んちゃ



乳離れを待っていたら
その間にまた妊娠して
しまうだろう

はは
はは



おいみろよ
あのヴァルキユリア
また孕んだみたいだぜ
よく持つよなあ

プライド高い
帝国軍人だつて
聞いてたけど
よく生きていられるよな
単なる淫乱だったのかね



あのいやらしい
ケツが死んだら
もったいないしな

ムチッ
今度で四人目だっけ？
父親は將軍なの？

ケツだけじゃない
全身がエロ肉で
覆われてるぜ！



ボニッ
いや不明らしい
將軍も飽きてきたつて
噂だよ



今日もたっぷり射精させてもらおう

肉便器
セルベリアちゃん

よろしく
頼む



今日もチンポにありつけてよかった



もうチンポのことしか考えられないんだっけ?



あっ...いけない
今から私のいやらしい肉穴を犯してもらえると
思っただけで

当然だ!
私は将軍閣下の
この基地備え付けの
精液便所なのだから



私のマ○コは
とろとろに
なっちゃった

とろ

大陸中探しても
これほどのチンポ
好きはいないな
始めましょ



娼婦でもここまで
サービスして
くれないよ!



あんまり
焦らさないでくれ



た、大佐
出ます!

遠慮するな
思いっきりだぜ

はあ…ほんとに
子育ては俺ら任せにして
毎日犯りまくるなんて



早くチンポを
ハメるのだ!
愚図愚図するな!



子供を産む為だけの
便器となった
私の心は...

順番にハメて
いくがいい

ニワズ♡

早く♡
44
ニワズ♡

お前達の濃い精液を
全て残らず私の膣に
子宮に注いでくれ

Toilettes

自分でも驚くほどに
安らかで穏やかだった



モッ！と激しくだ！
私の今を破壊せよ！

ズモ

突け！
田貝！

ズモ

アッ
プッ

この厳しさ
昔の戦場での
大佐のようです！

私と私の中
私と私の中
私と私の中
私と私の中

ズモ
アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ

アッ
アッ
アッ



セルベリアン・ブル
おはようございます

將軍?

將軍、ではないぞ!
出歩くのは控えよと
申したではないか!

出産間近の身で
兵士宿舎を訪れるとは
好きモノにもほどが
あるわい

Toilettes



アハハハハ!
私は、私はま...

帝國の... 盾となり
矛となり... として
一穴となる!

私に子種を存分に
注ぐかい! 我は
メスベンキなり!



ツクツク
好きマ、4ンホ好き



私は…自らの命を
絶てぬ臆病者なのだ

ハハッ

これからお主には
ワシの子を…
ヴァルキュリアを
産んでもらわねば
ならんのだぞ？

この外さぬ
ワシの
人向なる

まっか
うらやま
ビュルか

ハハッ
ハハッ



命を絶つ？何を
突然言い出すのかと
思えば…



それにワシとの
約束はどうした？
武人が誓約を破るのか？



ブタとの約束を
律儀に守る必要は
人間には無いかもしれん
しかし今の私は下卑た牝ブタだ
もう意地を張っても意味はない

まいも
いいかな

いや、誓約は守るさ
私はどうなっても
構わない…だから
子供達だけは
大切にしてくれ



バカ言うな
お前も大切にしろぞ

かまろ

END

最後までご覧頂きましてありがとうございました！
初めまして&毎度です！野晒惶です。

今回、実は最初は
「ヴァルキュリア人はふたなりである」
という設定で
セルベリアとヒロインを
絡ませたマンガを
描こうと思っていたのですが、
気が付いたらセルベリアの
相手が將軍になってました（笑

うちらしくないなーと思いつつ
サークルカットもそれで描いたし
いざ描き始めてみたら
色んな辛いことがたくさん
あったんですが、それはさておき
凄く楽しかったです。

なんていいますか、セルベリアちゃんはやっぱ良いですよ！
あ、もちろんヒロインや某分隊長も捨てがたいんですが…
誰ですか、野晒だったらエレノア大尉じゃないのか、とか
囁いてる人は…あ、空耳でした（汗

春のイベントの後は夏コミになると思いますが
また見かけた際には是非、読んでいってください！

奥付

扇情のヴァルキュリア

発行 のざらし

発行日 2009年4月26日

発行者 野晒惶

印刷 ねこのしっぽ 様

連絡先 <http://www.seri.sakura.ne.jp/~domo/g18c/>

Mail nozarasi_s@mail.goo.ne.jp

Pixiv <http://www.pixiv.net/member.php?id=7618>

成人向

ORDER 肉奴隷女

『帝国の魔女』と
恐れられている
気高く凛と美しい
セルベリア大佐を捕らえ
淫らな肉奴隷へと
墮落させよ！

扇情の ヴァルキュリア

出せ、セルベリアの中に

捕虜となった部下達の
安全と引き換えに
表面上は敵将軍の奴隷
となり「ある機会」を
狙っていたが次々と
繰り出される陵辱の波
に呑み込まれていき
ついに憎き将軍の子を
宿してしまうが…。

